

(兼題)

「噂」 小豆沢歌子 選

佳句

スポーツと噂話は馴染まない あきら
 噂した主が後ろに居て慌て 寿美
 ちくはぐな噂は風に飛んで消え 敬子
 赤・青・黄うわさは色を付けて飛ぶ たえこ
 コンセントぬいて噂を受けつけぬ 博子

人

鬼退治したと噂の強い妻 吉川らんまん

地

やめられぬ噂話とつまみ食い 増田のぼる

天

膨らんだ他人の噂は面白い 竹治ちかし

軸吟

補聴器を外して噂話聞く 小豆沢歌子

(兼題)

「橋」 竹治ちかし 選

佳句

赤橋が見えるとはっとする帰郷 利彦
 橋が出来神話の森が荒れて来る 桂子
 古里の橋がだんだん遠くなる 敬子
 この橋の向うに鬼がいると言う 歌子
 大小の橋を渡ってきた自信 たえこ

人

橋向う決めねばならぬことがある 小豆沢歌子

地

振出しに戻るに渡る橋がない 岸 桂子

天

やがて娘も母が渡った橋渡る 伊藤 寿美

軸吟

人柱抱いた橋あり城下町 竹治ちかし

(兼題)

「落ちる」 吉川らんまん 選

佳句

落ちて知るこの世の無情ふがいなさ のぼる
 おっこちた池へ救いの蜘蛛の糸 ゆきこ
 ハンカチが落ちましたよはもう古い 瑞人
 七十歳亡母の言葉が腑に落ちる あけ美
 落葉はらはら明日の事は語らない 敬子

人

冬迎え木の葉も落ちて春を待つ 桐原 洋子

地

椎の実の落ちる音のする昭和 佐藤あけ美

天

落ち込んだ心を癒す里の風 竹治ちかし

軸吟

手の平に落ちた涙のわけを問う 吉川らんまん

(席題)

「雪」 大福 利彦 選

人

ライバルへいつか雪辱耐える日々 竹治ちかし
 地 独りぼち心にはもう雪が降る 吉川らんまん
 天 雪帽子かぶった富士に見る威厳 竹治ちかし

軸吟

降る雪が子供の声も連れてくる 大福 利彦